

(様式第9号)

中間評価結果報告書

令和8年 9月 7日

衛生研究所長 殿

茨城県衛生研究所評価委員会

委員長 木村 博



調査研究課題	原因不明症例における次世代シーケンサーを用いたウイルスの網羅的解析
--------	-----------------------------------

評価項目	評価	意見	備考
①必要性	4、5、5、5、 5、5、4 平均評価点 4.7	新興・再興感染症への対応のため未知の病原体を探る必要性は極めて高い。	
②進捗状況	5、5、5、5、 4、5、5 平均評価点 4.9	ヒトゲノム除去により、ウイルス遺伝子検出感度が上がるなど、概ね計画に沿って進められ、予定した成果は達成されている。	
③計画の妥当性	4、5、5、5、 5、5、4 平均評価点 4.7	原因不明症例の解明が可能となったことは意義があり、医療機関への情報提供も含めて妥当である。病原体の検出状況により、流行状況の把握を新たな計画として追加している。今後も継続的な推進が望まれる。 <u>費用と対応検体数が課題と思われる。検査試薬や機器更新のための予算獲得が重要である。</u>	
④目標の達成及び 活用の可能性	5、5、5、5、 5、4、5 平均評価点 4.9	<u>感染症対策や病原体監視体制の強化に活用が期待される一方、時間や予算の制約もあり、研究成果の十分な活用には課題がある。</u>	
⑤総合評価	5、5、5、5、 5、4、4 平均評価点 4.7	検出感度が高い網羅的解析方法を確立し、原因不明症例のウイルス解明につながったことは臨床的にも意義が大きい。一方で、検体解析数と費用のバランスなど費用対効果に留意が必要である。	

評価点 1：不良 2：やや不良 3：普通 4：やや良好 5：良好

指摘事項等
①費用と対応検体数が課題と思われる。検査試薬や機器更新のための予算獲得が重要である。
②感染症対策や病原体監視体制の強化に活用が期待される一方、時間や予算の制約もあり、研究成果の十分な活用には課題がある。
③検体解析数と費用のバランスなど費用対効果に留意が必要である。
当所における検討内容及び見解等（上記指摘事項等の番号に対応）
①・③費用と検体数のバランスに留意するとともに、目的が達成できるよう解析対象検体の十分な検討及び外部資金を含め予算の獲得にも取り組んでまいります。
②新興・再興感染症や同様症状の複数不明症例の発生時など、健康危機において原因を究明するために活用していくことを想定しています。

<最終評価>

☒ A	☐ B	☐ C
------------------------------------	-------------------------	-------------------------

A : 実施相当

B : 計画を見直し実施相当

C : 実施不可相当

評価の理由や助言等（評価「B」の場合は見直しを要する事項）

